

第8回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和5年7月3日 午後3時から午後4時15分

場所 ふれ愛支援センター 多目的ホール

参加 委員 18名
事務局 6名

議事

- ①前回の検討委員会のまとめ（資料1）
- ②大和地区小学校の適正配置について（資料2）
- ③その他

1. 開会（学校教育課長）15:00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

教育部長 資料1、資料2について説明。

委員長 資料1及び資料2について、事務局より説明がありました。
第7回の検討委員会では、事務局の説明にもあったとおり、『できるだけ早期に、6校をフラットに統合する』という意見が強かったように思います。その想定の場合、資料2に示されていますが、統合時の児童数は535人、1学年3学級の計18学級となる見込みです。一方で、前回の検討委員会では、大きな規模を心配するご意見もありました。それらは資料1の3ページに、課題として記載されています。その中でも、二つの大きな四角で囲われている課題について、意見をいただきたいと思います。学校運営にかかわる部分が多いので、まず、校長先生方からご意見をいただきたいと思います。

委員 後山小学校も一緒に統合するのか、集団に馴染めない子どもたちのために特認校として残していくのかというところで一つ解決策として考えられると思います。

委員 今、全校15名のうち、学区内の子は4名です。残りの11名は後山小学校の教育方針に賛同した方や、手厚い支援が必要なお子さんが保育園から話を聞いて入学することが多いです。6校が統合した場合、後山の子どもたちも後山小学校か大規模校を選べるようにしたらいいと思います。後山小学校は人数が少ないので活動が限られてくる

などデメリットもあります。選択肢という形は保護者や子どもにとって必要なことだと思います。

委員 534 人、18 学級という学校は南魚にはありませんが、他市町村にはあります。ただ、南魚の実態からいくと 2029 年にはさらに若い職員しかいない状態です。3 年で異動するという基準があるなか、18 学級のうち学級担任がほぼ 20 代というような可能性があることを考えると学校運営的には厳しいものになることは想像に難くありません。何らかの対策を講じないと、新しく若くて良い、ということだけでは解決できないことはたくさん起きるだろうと想像しています。子どもたちのより良い教育を安定して供給していくには、ある程度の教職員の年齢バランスや、南魚・魚沼・十日町地域の現状を踏まえた上での策がないと、学校は大変だと思います。みんなで新しいものを作っていく良さは確かにありますが、統合後の数年の子どもたちの状況を考えると賛成はできないという気持ちがあります。

委員 500 人以上の学校は荒れる危険があると思います。級外の職員数は変わらないので、何かあった時に対応できません。その職員数が変わらずに問題事案が増えるわけなので一つ一つ丁寧に対応できなくなります。職員も若手が多く、20 代で学年主任をやっている職員もいっぱいいます。クラス替えがあるのはすごくいいことだと思いますが、あんまり規模を大きくすると大変だと思います。

委員 八海中学校は全校 284 名ですので、ちょうど倍です。年齢差のある子どもたちがこれだけの学級数で対応していくのは学校運営や先生方にとっても難しいと思います。職員も 3 年ごとに変わりますし、地域に根差した教員、地域の方々に学校に入っていたいて学校運営に協力していただくことが必要になってくるかと思います。

委員 昨年のデータですが、400 人以上の学校数は県内 444 校中 75 校です。500 人以上は 45 校、約 10% で、ほとんどは都市部に集中しており、新潟市が半分以上、長岡でも 7 校、近隣では小千谷小学校しかありません。職員の異動を考えた時に、小千谷は長岡や見附から中堅の教員が異動してくるので若手が多いという印象はそんなにありません。南魚沼市は県境なので長岡から赴任してくる先生方は小千谷に比べると非常に少なく、魚沼市と比べても少ないです。特別支援学級に在籍する子もいますが、グレーゾーンの子も非常に多く、1 クラス 30 人であれば 3 人くらいはグレーゾーンの子どもたちです。グレーゾーンの子どもたちをケアしながら新採用の先生が上手に学校運営できるかという難しいと思います。それぞれの学校で色々なルールでやってきたのがすぐに新しい学校のルールに馴染めるかというところではないと思います。最初にルール作りをしたとしても若い先生方は 3 年で異動するので職員が入れ替わり、3 年経つと別の学校です。六日町小学校は 6 つの園から子どもたちが入学してきます。最初は学校

生活のルールを学んでいきますが、それぞれの園でやっていることと学校でやることは違うのでそれを揃えるのに苦労します。それを1年生から6年生まで一気にやることになるのでかなりそこにエネルギーをとられることになります。また、大勢の集団をみると後ずさりしてしまう子がいるということを知っておかないといけないですし、そういう子が学べる場所が必要だと思います。

委員長 校長先生の皆様からご意見を伺いました。校長という立場で、どのように学校を運営していくのかということを想定してのご意見と感じました。他の委員の皆様から、校長先生方のご意見に対し、質問や追加のご意見などをいただき、議論を深めたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員 教員や級外職員の確保、色んな小学校から来る場合の問題点について指摘をありがとうございました。希望者が少ないからベテランの教員が配置できないというのは県としてもう一度考えてもらいたいと思います。開校までの6年間に今いただいた課題をクリアして行って、南魚沼市で考える1学年3クラスの学校を作ることができると考えていかないと、解決できないと思っています。プロの先生方の考え方でいくと、1学年20人くらいですが子どもの減少は速く、数年後には複式学級になるという問題を抱えているので、複式学級でできるできないというのを含めて考えていかないといけないと思っています。先生方から厳しい意見をお伺いしましたが、6年かけてどうやってクリアできるのかを考えていくのがこの学区再編検討委員会の課題だと思っています。

教育長 新潟県の教員確保については全県が極めて深刻な状況ですが、特に南魚沼市、糸魚川市や村上市は極めて難しい状況です。毎年義務教育課に強く交渉していますが教員確保は年々深刻になっています。6年かけて教員から頑張ってもらいたいという想いは受け止めたいところですが、実際そのようなことができるのかということについてはぜひ校長先生方からお聞きしたいと思います。

委員 先生方から教員の確保が大変難しいという話がありましたが、それは制度の問題なのでこの委員会ですべてまで答申するのかということだと思います。我々は教育現場をよくわかっていないので、踏み込んで現場の状況など全部を含めた中で規模などを諮問されると、個人的に難しいと思います。

委員 現場主義で考えれば、現実的によくわかっている先生方がやりやすい形でやらないと、形だけ作っても現場が混乱してうまくいかないと思います。医療も同じで、いくら理想をいっても医者がいなければ何もできません。三用小と赤石小の統合でいうと交流がある地域なので、よく話をすれば混乱することなくクリアできると思います。現場の声を尊重しながら進めることがいいと思います。

委員 20年先には400人を切り、30年後には300人となるのでどこかで大鉦を振らなければいけないと思っています。浦佐小学校だけみると20年、30年先も自立できるし、三用小学校・赤石小学校・大崎小学校・藪神小学校の4校でも20年、30年先も持つような児童数です。そうなると地域色が全く違うので、大規模校にはなるがなんとか先生方の配置について県にお願いするしかないと思います。後山小学校についてはもっと児童数を増やせる体制を整えて、受け皿として残していただければと思います。

委員 学童の先生が少ないという話を聞きます。この規模になった時に学童の運営は大丈夫なのか。

課長 学童については、仮に学校規模が大きくなって人数が増えれば受け皿を確保しないとイケないと思っています。統合した学校に学童を整備するのか、家の近くの統合前の学校の近くに戻るのがいいのか、方法はいくつかあると思うので統合の具体的な話が出た段階で協議をしていきます。

委員長 令和8年度に三用小で生じる複式学級について、ご意見があればお願いします。

委員 資料2で事務局案が出ている訳ですね。

教育部長 これは第7回検討委員会であるべく早く1校にまとめるという意見が多かったので、具体化した場合をお示ししたものです。実現可能か不可能かというところ難しいところがありますが、皆さんの案を具体化した場合にこんなスケジュールになるということでご覧いただければと思います。

委員 令和8年に三用小学校で複式学級になるということですが、例えば統合が6年後となった時に複式学級にせざるを得ないのか、または統合が決まっているので複式学級にしないでいいのかということだと思います。ただ、前回の学区再編の答申では複式学級が生じた場合は統合するという事になっているが、令和11年に統合するのが決まっていれば複式学級にせずやっているのかをお聞きしたい。

教育長 教員は県が配置しますが、複式学級となった場合はルール通りの人数しか配置されません。複式学級では教育的効果が減少すると判断するのであれば、場合によっては市が独自に措置をすることは可能です。

委員長 資料2は事務局の説明にあったとおり、できるだけ早期に大和地区の6小学校を一つに統合するという視点で作成したものです。今まで議論いただいた内容を反映する場合、どのような形に小学校を配置するのが適切か、ご意見をお願いします。

委員 資料1の3ページにある、改築のための新たな用地取得は困難ということについて説明をお願いします。

課長 現状、公共用地の中で改築を行うことが大前提というような状況になっていて、新たに用地を取得するとなると6年間のスケジュールでは不可能と考えております。既存のグラウンドや広く使えるような公共用地があればいいですが、基本的には現学校のグラウンドに建設して、移設して、壊すという形をとらざるを得ないというのが現実的な対応になるかと思えます。

委員 基本的に浦佐地内という考えしかないのでしょうか。

課長 前回までの議論の中で浦佐に限定をしないという意見もありました。各学校のグラウンドの広さがどれくらいで、建物部分の敷地が収まるのかということと比較することで検討が可能だと思います。浦佐地区でなければいけないという想定はしておりません。

委員 大和中学校の改築についてはこの通りに進むのでしょうか。

課長 令和5年度の実施計画に入っており、令和6年度に基本設計、令和7年度に詳細設計ということで3年間の事業費がすでに上がっているものなので記載させていただきました。

委員 藪神小学校、大崎小学校、おおまき小学校はほぼ同じ規模で藪神小学校とおおまき小学校は旧大巻村です。この3校を五日町小学校跡地に持ってくれば浦佐小学校を核とした再編がちょうどいい人数でできるのではないかと思います。地域の感情もあるし難しいところかと思いますが、地図を見ると距離感もいいと思います。

委員長 それでは今日いただいたご意見を事務局からまとめていただきたいと思えます。

委員長 ③その他について委員の皆さまから何かございませんでしょうか。

委員 五十沢へ向かう道にバスに乗る子どもたちが集まる場所がありますが、右側だけに歩道があって左側に歩道がありません。横断歩道がないところを渡るか、横断歩道を渡っても歩道がないところを歩いてこなきゃいけなくなります。そういう所が市内に結構あると思うので、皆さんで点検して検討いただきたいと思えます。

教育長 バス通学の停留所については地域の皆さんと協議しながら進めています。横断歩道が必要という声はたくさん聞こえてきます。点検して優先順位をつけながら警察署と検

討していきます。

課長 学校教育課は道路管理者、交通管理者など関係者が集まる交通安全のための協議会に参加しています。年に1回道路パトロールを行って危険箇所の確認、地域からの声による危険箇所の改修などを行っております。横断歩道についても適切なものについては要望していきますが、警察もすぐに動けないことも多いので、できるだけ具体的な状況をお示しして要望していきたいと思っています。

委員 横断歩道を作るのは公安委員会ですが、予算がないと言われて終わってしまいます。許可だけもらってふるさと納税など市の予算で設置することはできないのでしょうか。

課長 現状そのような仕組みはないと思われるので、可能なのかを含めて話を聞いてみたいと思います。

委員長 他に事務局からはありませんか。

課長 今回の会議で大和地区の適正配置について意見を出していただきました。また、適正規模についても、また今後議論が必要と思われます。第9回の検討委員会においては本日の意見をまとめたものをお示しして、ご議論いただきたいと思っています。

委員長 大和地区の適正配置については、3回の会議で検討を続けてきました。次回、皆さんから出していただいた意見を基にお示ししたいと思います。

午後4時15分終了

5. 次回の開催予定：7月25日（火）

6. 閉会